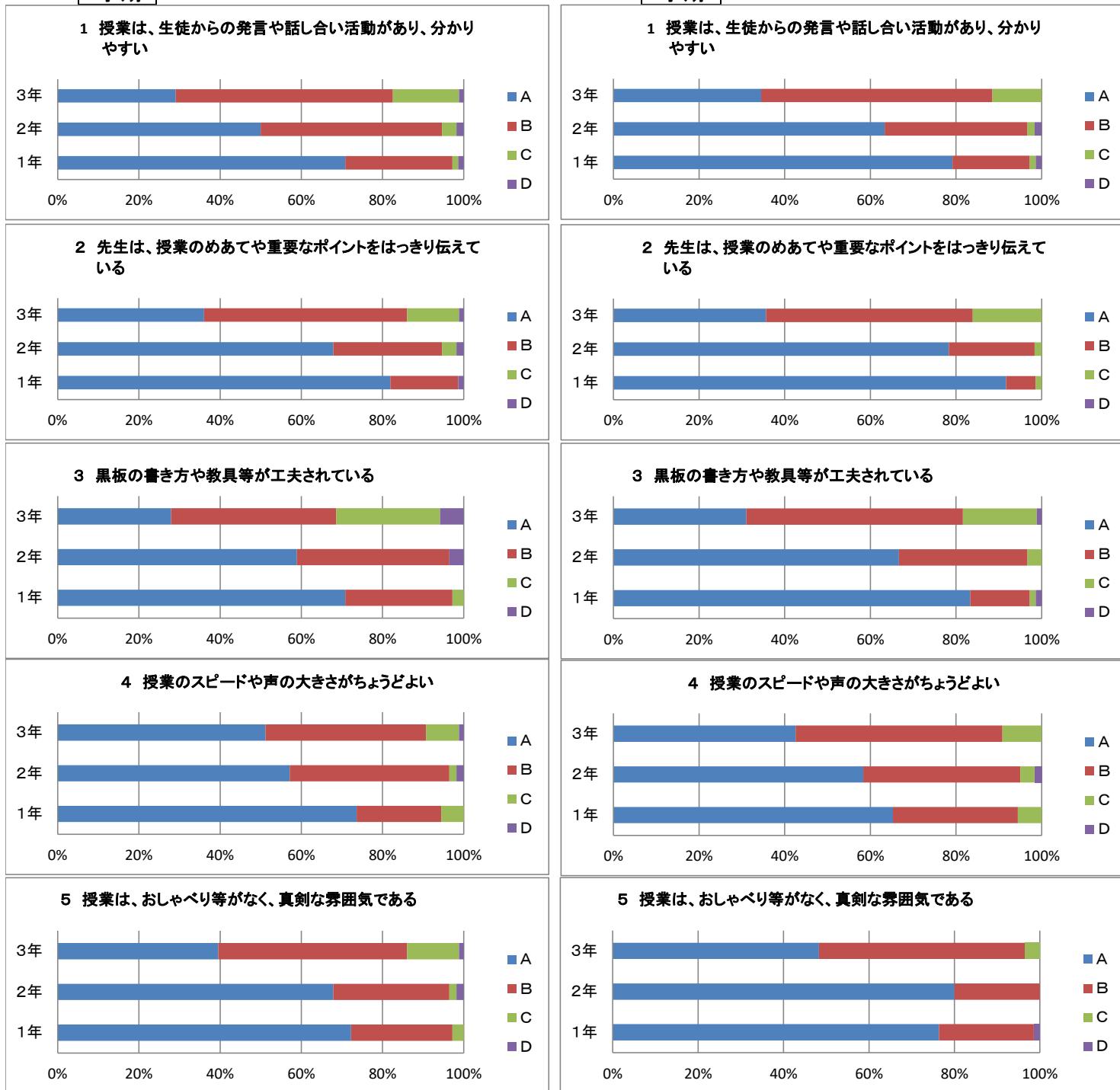


令和元年度 12月 授業評価アンケート(生徒) 集計結果【国語】

A:強くそう思う B:大体そう思う C:あまりそう思わない D:全くそう思わない

1学期

2学期



【分析】一学期と比較し、肯定的な意見が増えた。これは、グループでの意見交流の活動を増やしたこと、前時の重要な再確認から本時においても明示したことにより、生徒の理解が深まり、意欲喚起につながり自主的に取り組めた結果であろう。全国学力・学習状況調査における調布市の分析結果から提示された課題「場面の目的を理解し、目的に応じて必要な内容をとらえ、自分の考えがもてるような指導の充実を図る必要がある」の解決に向けて、これからも授業改善に継続的に取り組んでいく。

【課題】

[1年]「4」の結果から、生徒の理解の速度に対して、授業の展開が速いと思われる。1学期よりも理解の深度と発言の内容の充実を感じられているため、思考時間が十分ではないと考えられる。意見交流を含めて、思考の咀嚼ができる機会と時間を確保する。

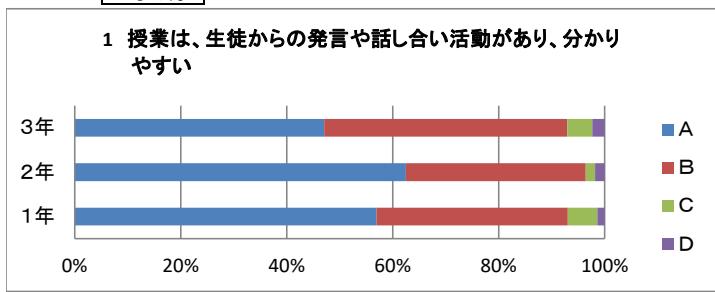
[2年]「3」の結果から、授業の進度の緩和が必要と感じる。前学期よりも、理解の速度の高まりと深度も向上してきている。ペース配分の考慮をするためにも、改めて理解を共有できる意見交流の機会を増やして改善を図る。

[3年]一学期と比較し肯定的な意見が増えた。さらに分かりやすい授業のために、めあてや重要なポイントの明示、板書の工夫などの改善が課題である。

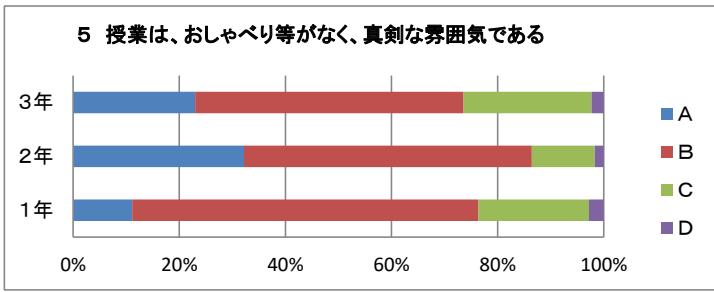
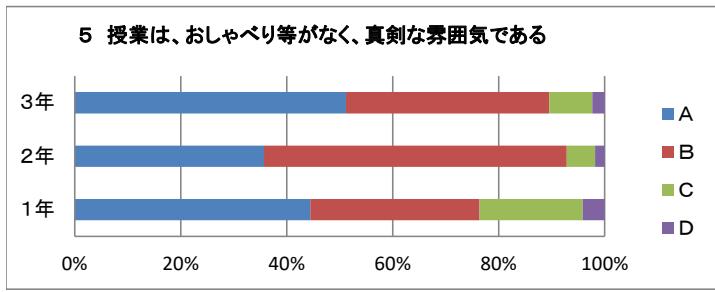
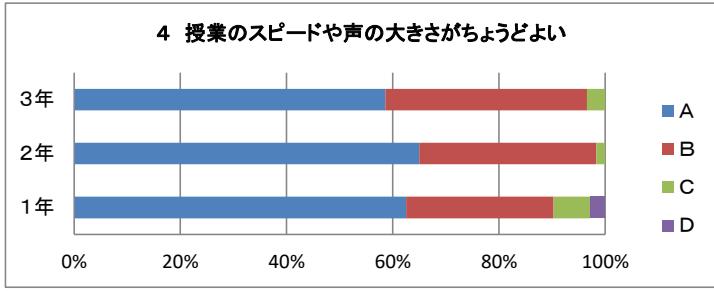
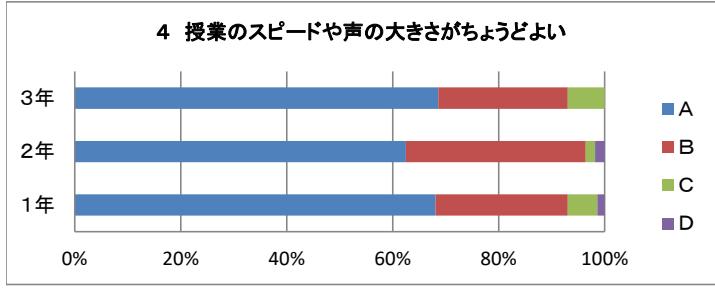
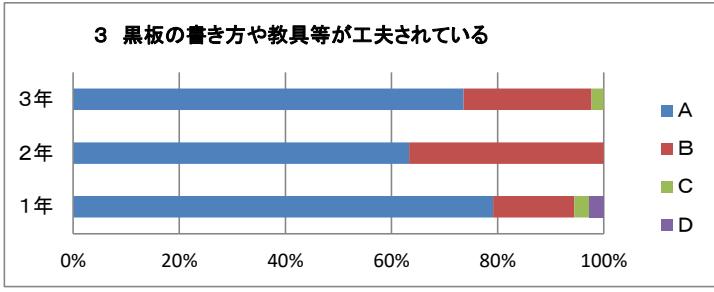
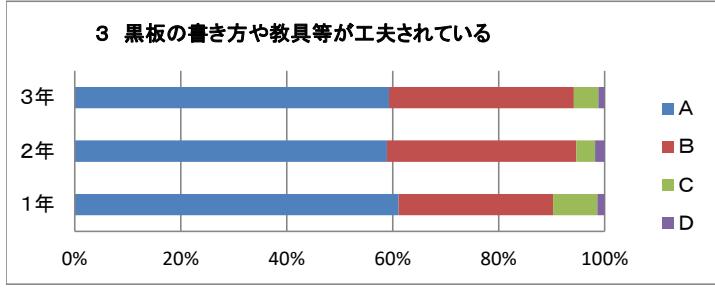
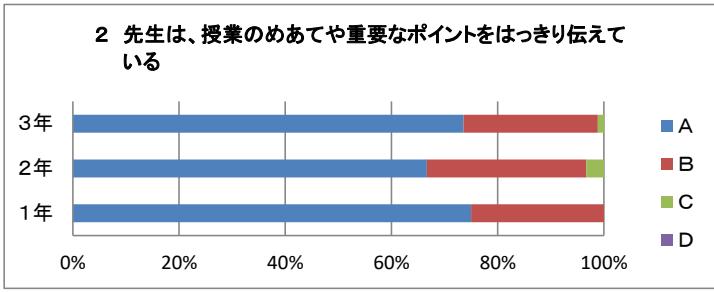
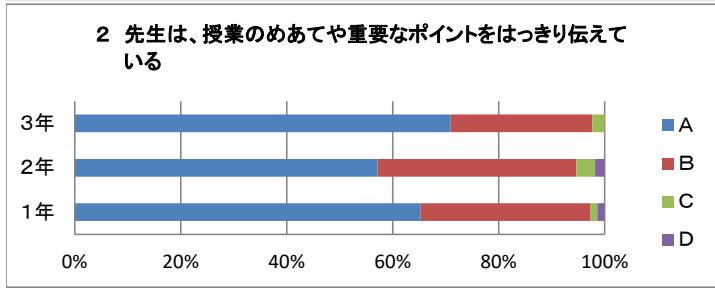
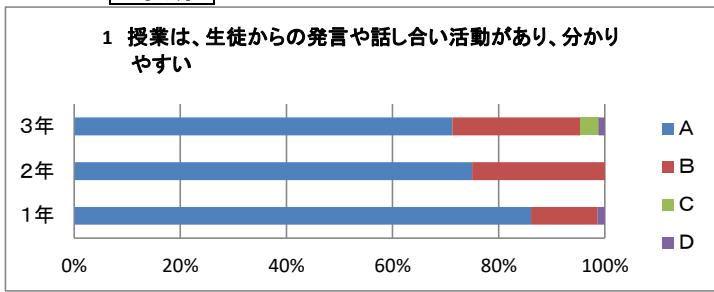
令和元年度 12月 授業評価アンケート(生徒) 集計結果【社会】

A:強くそう思う B:大体そう思う C:あまりそう思わない D:全くそう思わない

1学期



2学期



【分析】

1学期と比べて授業のわかりやすさや教具等の工夫においては肯定的な意見が増加した。「1」の結果から、授業内で対話的活動を取り入れたことで他者の意見に触れ、より多面的・多角的に社会的事象について考察し、理解を深めることができたと考えられる。また積極的にICTを活用し、写真や資料を多く授業内で提示した。視覚的要素を多く取り入れたことで、各分野に関する生徒の興味関心を高めることができ、生徒が主体的に学習活動に取り組めるための授業改善を行うことができた。

【課題】

[1年]「4」の結果から、内容の複雑化に伴い授業の進行が速いと感じる生徒が増加していることがわかる。授業の生徒の個別の理解度に応じて授業のスピードを調整したり、個別の指導を行う必要がある。また、「5」の結果から、授業規律に課題がみられる。話し合いや自由な意見発表とそうでない時間の切り替えを徹底し、メリハリをつけた指導をしていく。

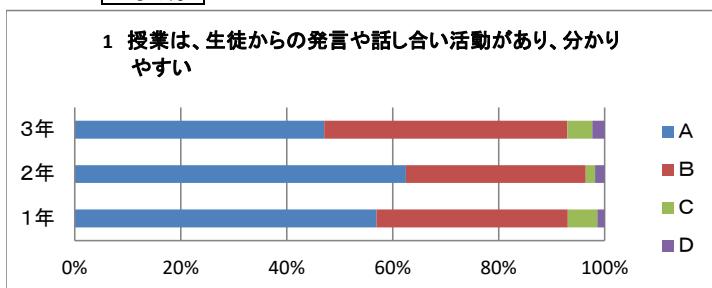
[2年]「5」の結果から、授業規律の点で依然として課題がみられる。「1」の結果から分かるように、積極的な発言や話し合い活動に前向きな生徒が多いため、話し合い活動や意見発表とそうでない時間の切り替えを徹底し、メリハリをつけた指導をしていく。

[3年]「5」の結果から、授業の集中した雰囲気づくりが課題としてあげられる。誰もが積極的に参加できる授業づくりをするために導入時の指導の工夫を意識したが、結果として「楽しい」と「騒がしい」を混同してしまうことがあったので、授業内での切り替えを徹底させたい。

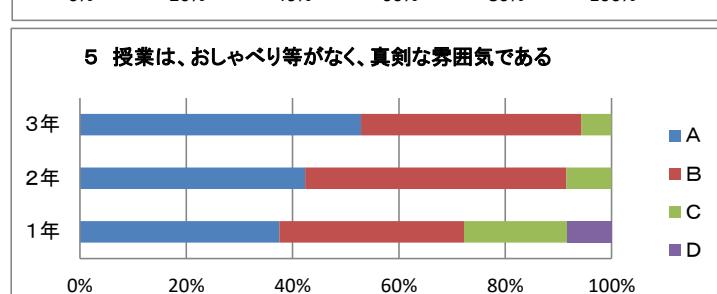
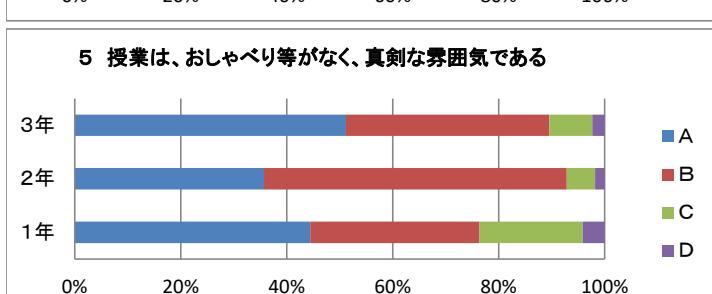
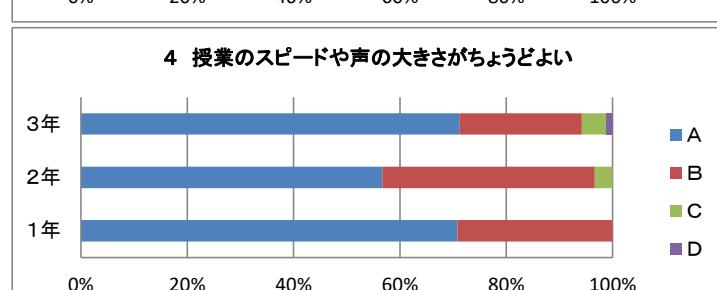
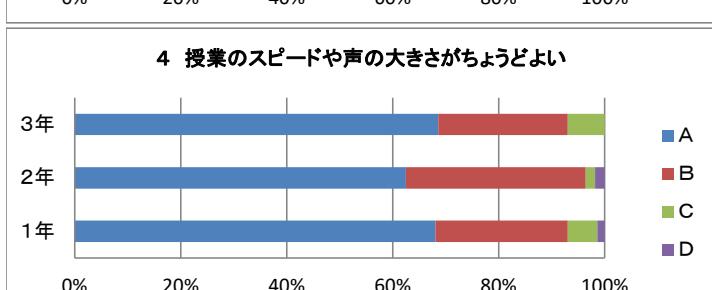
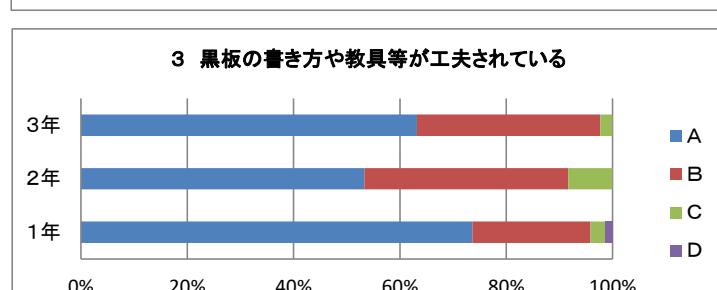
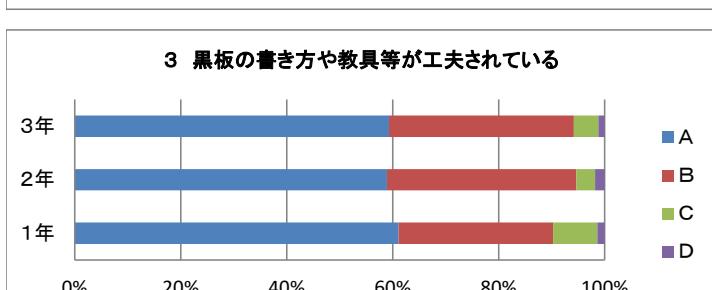
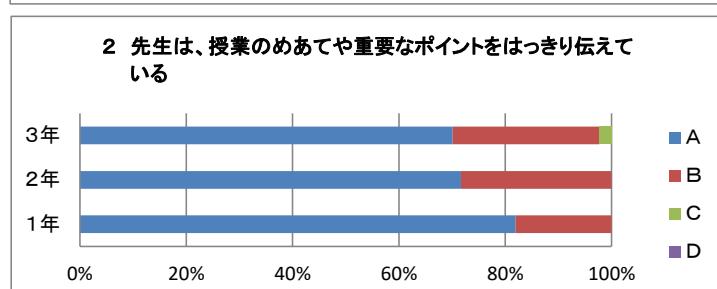
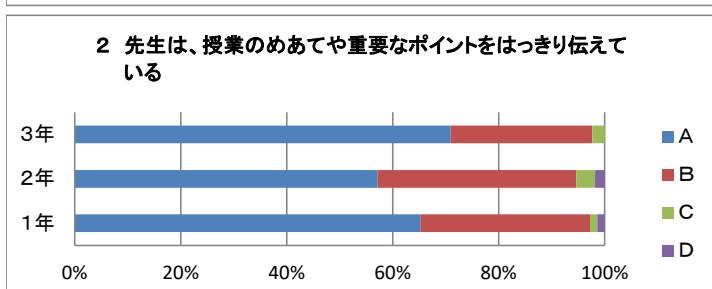
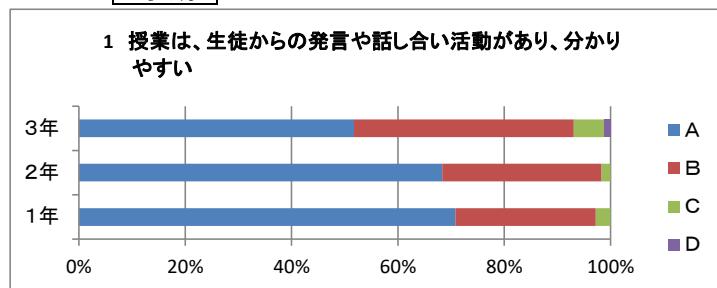
令和元年度 12月 授業評価アンケート(生徒) 集計結果【数学】

A:強くそう思う B:大体そう思う C:あまりそう思わない D:全くそう思わない

1学期



2学期



【分析】

1学期と比較し、肯定的意見が増加した。これは、授業の中で生徒が主体的に学習活動を行えるよう、教具や発問を工夫し、授業改善を行ってきたためと考えられる。全国学力・学習状況調査において調布市では、「関数や問題の解決方法を自ら考え、説明する指導の充実を図る必要がある。」と結果を分析しているため、これからも継続した話し合い活動を行い、それをより効率的・効果的にするための授業改善を行っていく。

【課題】

[1年]「5」の結果から、授業規律面で課題がある。自分の考えがまとまっていない段階で、好きのように発言する傾向があることが、D評価につながっていると考えられる。発言が多いことは良いことだが、進級するにあたり、発言の仕方等を指導していく。

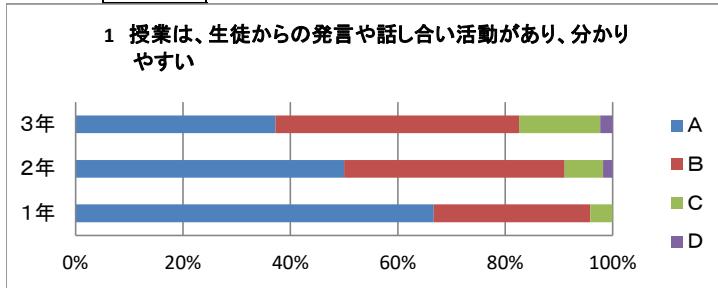
[2年]「3」の結果から、板書や教具の工夫に課題がある。タブレットや、生徒から見えやすいプロジェクターが導入され、授業の板書や教具を、より工夫できる環境になっているため、さらなる授業改善をしていく。

[3年]1学期に比べ、全体的に肯定的な意見が増加している。しかし、「1」の項目は、他学年よりも肯定意見が少ない。受験を意識した授業に捉われることがあるが、主体性を高めるために、話し合い等の活動を授業の中に取り入れていく。

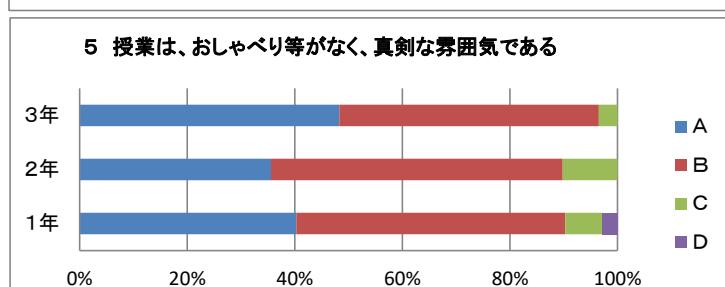
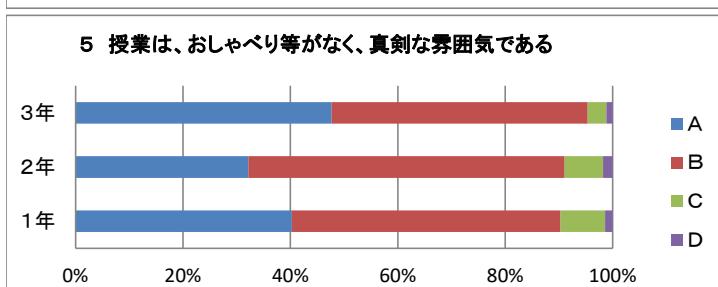
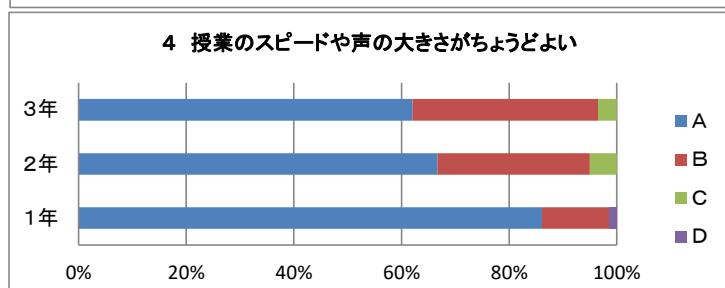
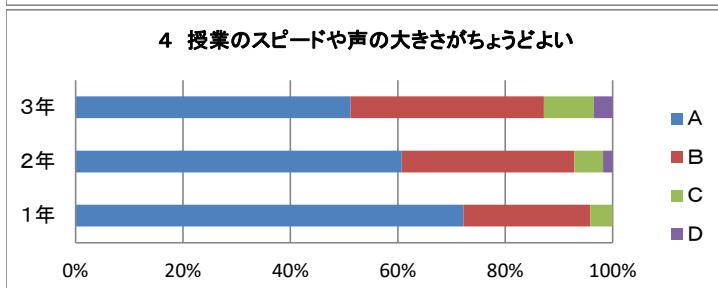
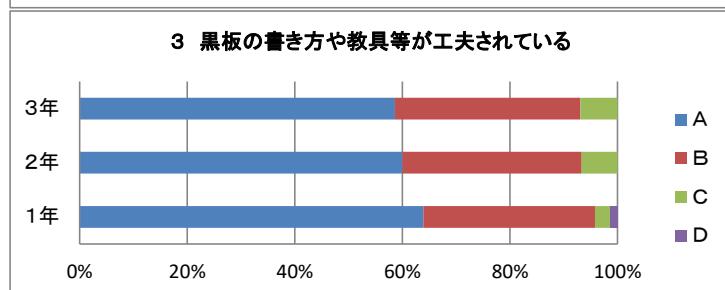
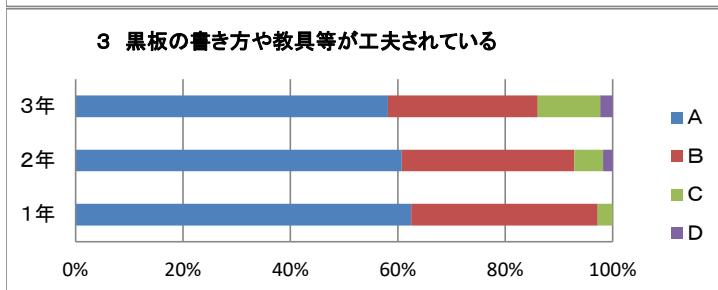
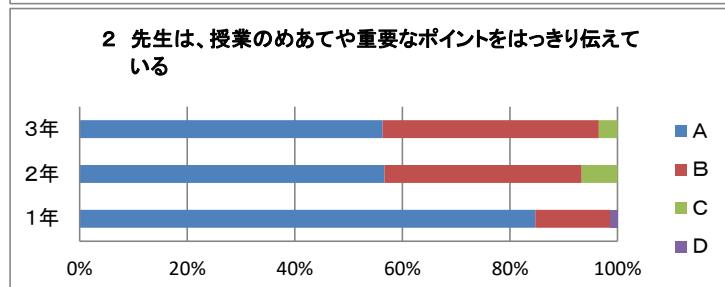
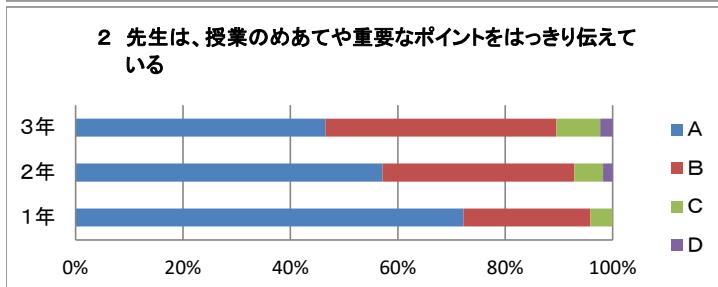
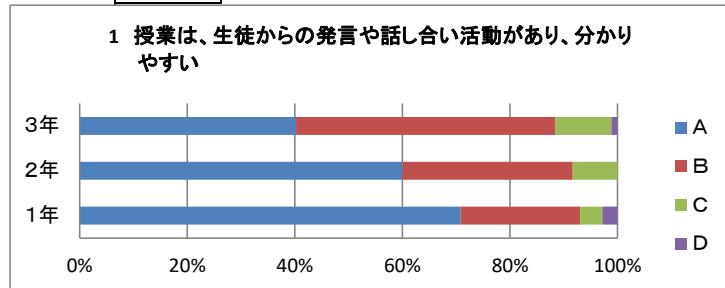
令和元年度 12月 授業評価アンケート(生徒) 集計結果【理科】

A:強くそう思う B:大体そう思う C:あまりそう思わない D:全くそう思わない

1学期



2学期



【分析】

1学期と比較し、2.3年生は肯定的意見が増加した。これは、授業の中で生徒が主体的に学習活動を行えるよう、教具や発問を工夫し、授業改善を行ってきたためと考えられる。1年生ではAとDを選択する生徒がやや増加するなど両極端な結果となった。肯定的意見は授業の目標や重要な点を強調し確認したことで、目的意識をもって授業を受けられるようになったためと考えられる。D評価の増加に関しては内容が複雑化しているので、より個別支援に力を入れる必要があると考える。今後も授業の改善に努めたい。

【課題】

[1年]「1」～「4」の項目について、A評価の増加が見られるため、全体への指導は良い方向へ向かっていると考えられる。D評価の増加につながっているのは内容の複雑化に伴い、個別支援の必要な生徒への配慮がまだ足りない部分があるためと考えられる。それぞれの苦手な部分を支援できるように、板書と教具の工夫により、さらなる授業改善をしていく。「5」の項目については引き続き発言の仕方等を指導していく。

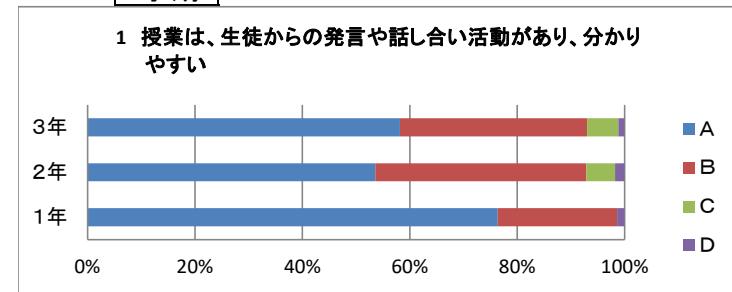
[2年]1学期に比べ、全体的に肯定的意見が増加している。「1」の項目のA評価は増えているが、「5」の項目のC評価が微増しているのは、1学期に比べ、実験や話し合い活動が多くなったため、メリハリに欠けると捉えた生徒がいると考えられる。生徒に発言させる場面や話し合い活動を取り入れつつ、授業中のメリハリをつけられるように指示していく。

[3年]1学期に比べ、全体的に肯定的な意見が増加している。しかし、「1」の項目は、他学年よりも肯定意見が少ない。受験を意識した授業に捉われることがあるが、主体性を高めるために、話し合い等の活動を授業の中に取り入れていく。

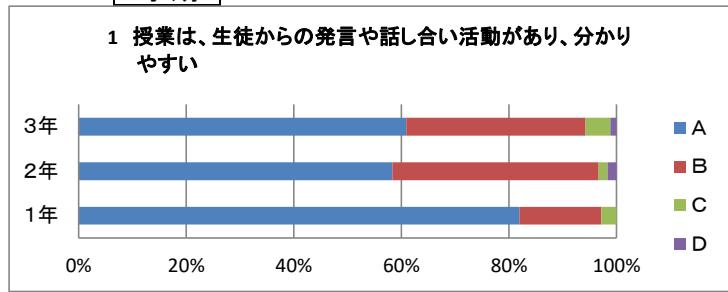
令和元年度 12月 授業評価アンケート(生徒) 集計結果【英語】

A:強くそう思う B:大体そう思う C:あまりそう思わない D:全くそう思わない

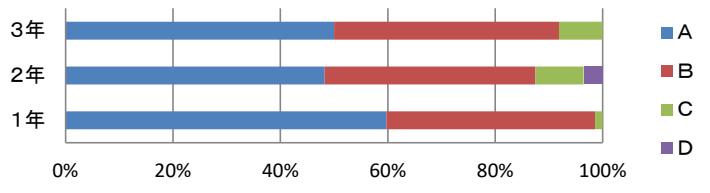
1学期



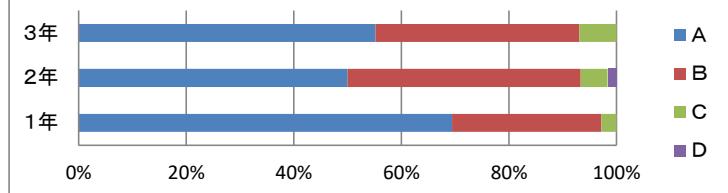
2学期



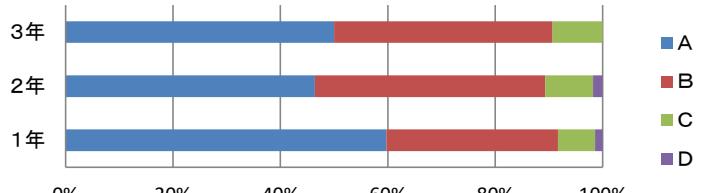
2 先生は、授業のめあてや重要なポイントをはっきり伝えている



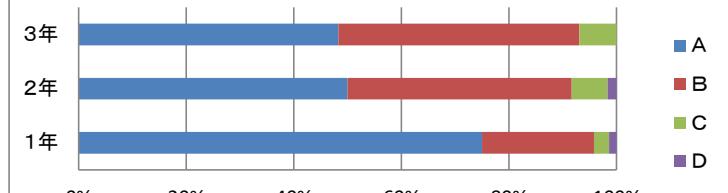
2 先生は、授業のめあてや重要なポイントをはっきり伝えている



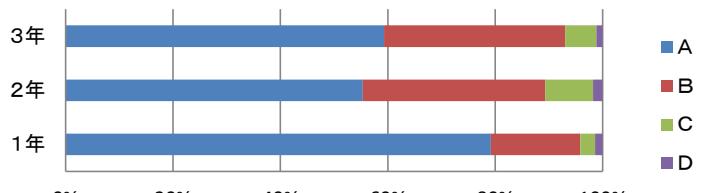
3 黒板の書き方や教具等が工夫されている



3 黒板の書き方や教具等が工夫されている



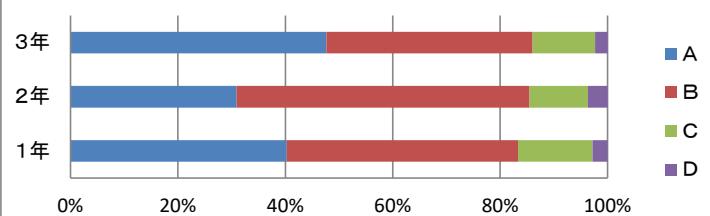
4 授業のスピードや声の大きさがちょうどよい



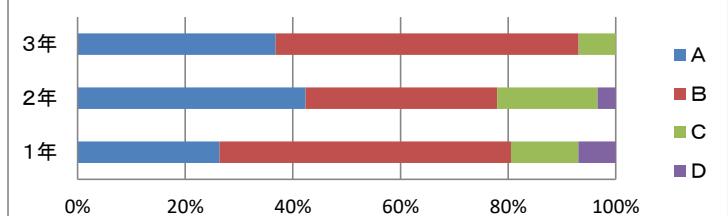
4 授業のスピードや声の大きさがちょうどよい



5 授業は、おしゃべり等がなく、真剣な雰囲気である



5 授業は、おしゃべり等がなく、真剣な雰囲気である



【分析】

1学期と比較し、項目1～4で肯定的意見が増加した。これは、授業のポイントを明確に伝え、教材教具を工夫するなどの授業改善を行ってきたためと考えられる。全国学力・学習状況調査において調布市では、「書くこと」や「短答式」「記述式」など、子ども自らが考え表現する指導の充実を図る必要がある。』と結果を分析しているため、適切な文法の指導を心がけるとともに、今後も主体的に取り組めるための授業改善を行っていく。

【課題】

[1年]項目1～4…A評価が増加しており、全体への指導は良い方向へ向かっていると考えられる。項目5…授業規律に多少課題がある。発言の多さは良いことなので、発言の仕方を指導していく。D評価の増加は、内容の複雑化と語彙増加に伴い、要個別支援生徒への配慮不足に因ると考えられる。集中が途切れぬよう活動にメリハリをつける、ワークシートのピント量を段階別にする等、配慮していく。

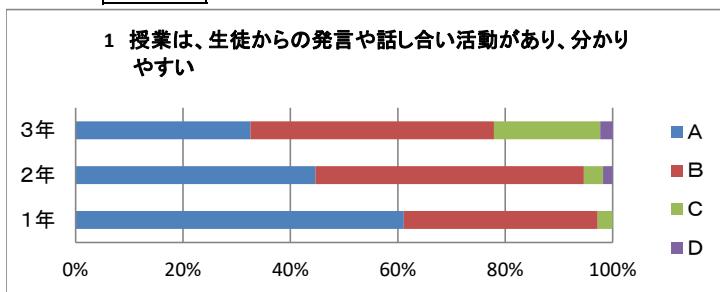
[2年]項目1～4の結果から、AB評価が増加もしくは維持されている状態であり、概ね良好といえるが、全体的に他学年と比較するとA評価が低く、改善の余地があると考える。授業プランや目標の提示に努めるとともに、教材教具の工夫にも一層力を入れていく。項目5についてはA評価が増加し、AB評価で8割を超えたので改善が認められたと考えられる。今後も授業規律を大切にメリハリをつけた授業展開をめざしていく。

[3年]項目1～4についてはA評価が増加しており、生徒の期待に沿った指導が概ね達成できていると考えられる。4項目の中で最もA評価が少ない項目3について教材の工夫をさらに意識的に重ねていく。項目5に関してA評価が減少しているため、発言のし易い雰囲気は保ち、発話などの際に一層メリハリをつける指導を行っていく。

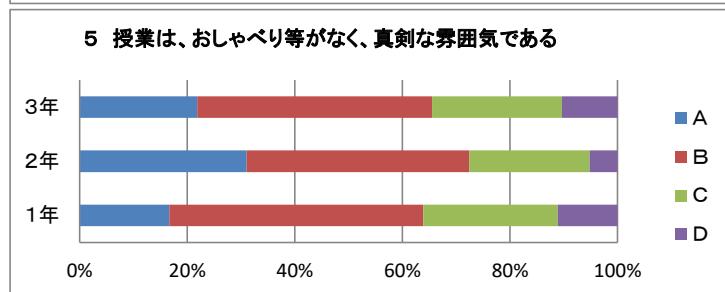
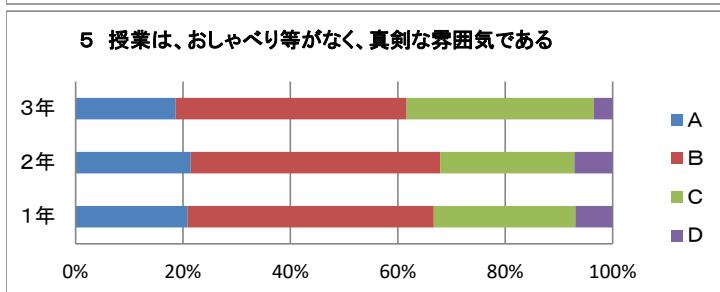
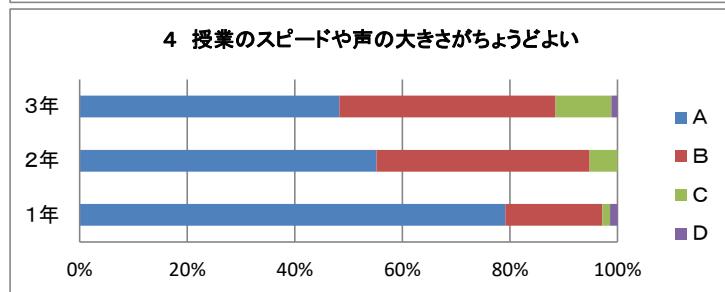
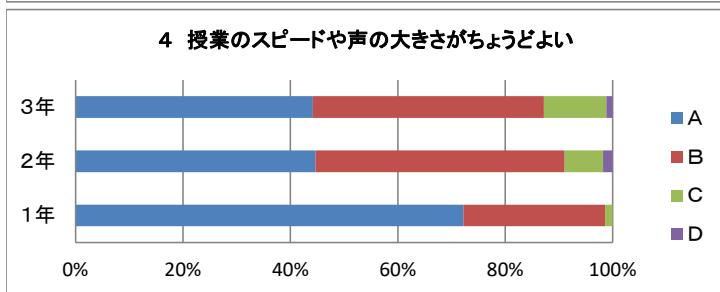
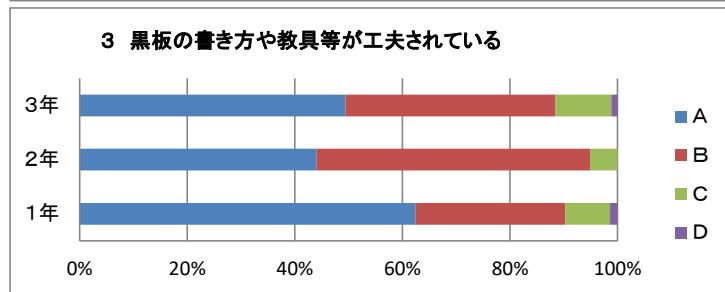
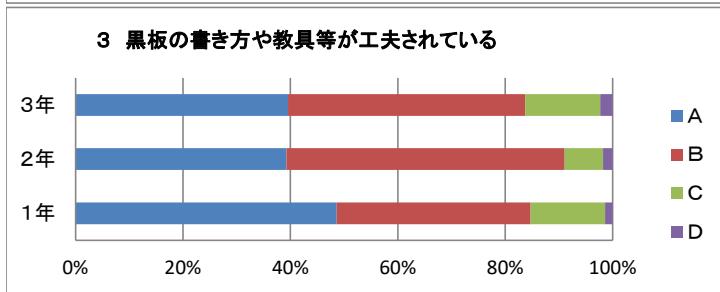
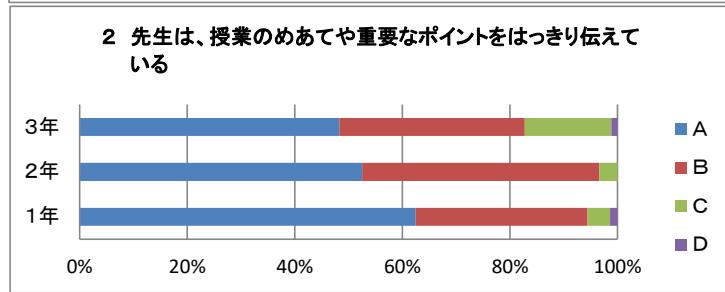
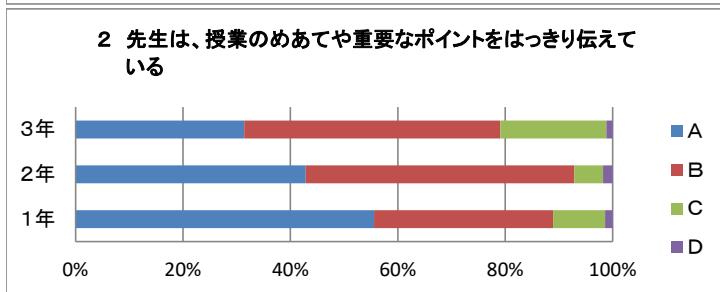
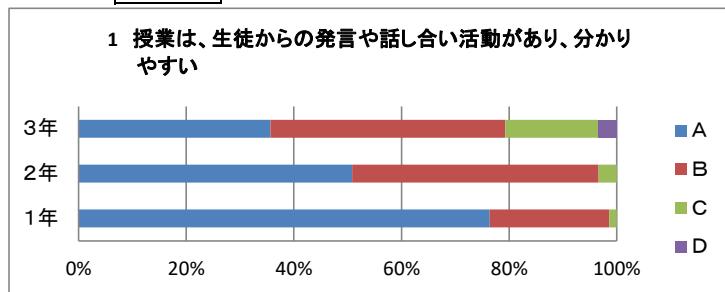
令和元年度 12月 授業評価アンケート(生徒) 集計結果【音楽】

A:強くそう思う B:大体そう思う C:あまりそう思わない D:全くそう思わない

1学期



2学期



【分析】

1学期と比較して、全体的に肯定的な意見が増加した。これは、授業の目標や到達点を毎時間確認することで、目的意識をもって授業を受けられるようになったことが要因と考えられる。しかし、設問「5」に関しては1学期より改善したものの、他の設問より全学年とも肯定的な意見が少ないとから、依然として授業規律に課題があることが分かる。特に1年の回答でAとBの回答が減少したのは、学校や授業に慣れてきたことによる気の緩みが授業にも出てしまっていたものと考えられる。

また、肯定的な意見の中でもBと回答したものが多く、より一層の授業の充実が必要である。

【課題】

[1年]話し方に抑揚をつける・教具を工夫し、活動内容の区切りがはっきり分かるようにする等、授業改善を行い、授業規律を整えていく。自分で楽譜に書き込む等、重要なポイントの意識づけを行っていく。

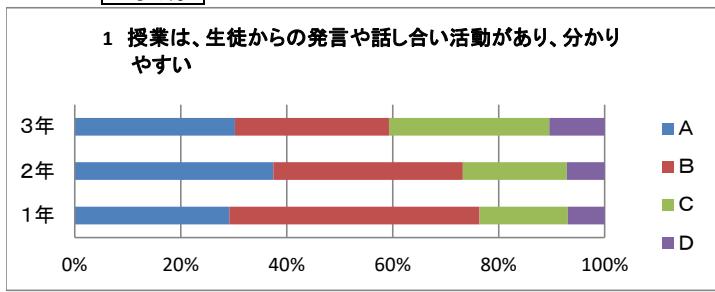
[2年]授業規律を整えていく。ICTの活用を行い、視覚的にも聴覚的にも分かりやすい授業について研究し、授業改善していく。

[3年]授業規律を整えていく。他学年と比較すると、生徒からの発言や話し合い活動が少ないことが分かる。自分の考えを持ち、他者と話し合うことで、より理解が深まるよう授業改善していく。

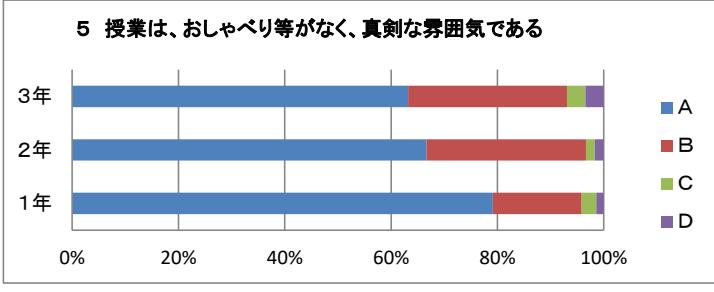
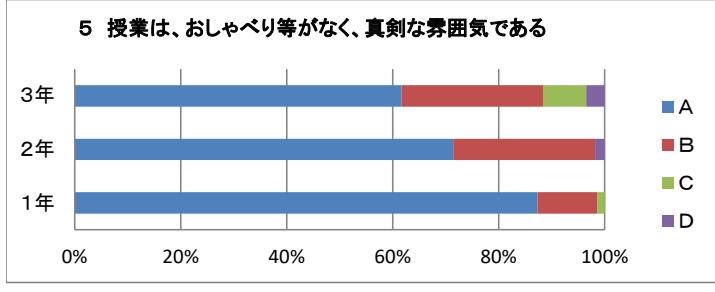
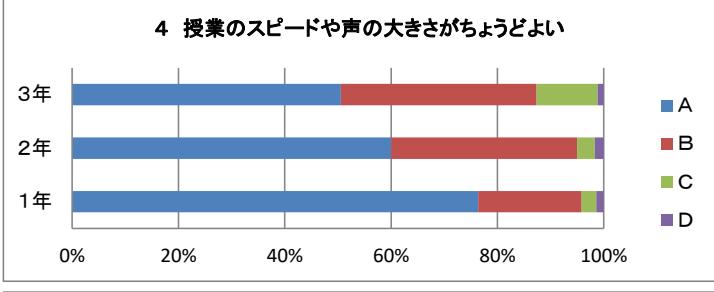
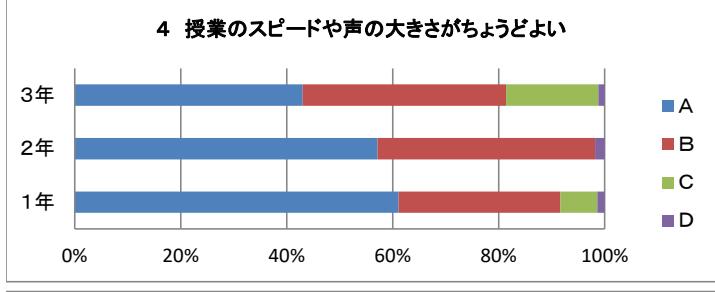
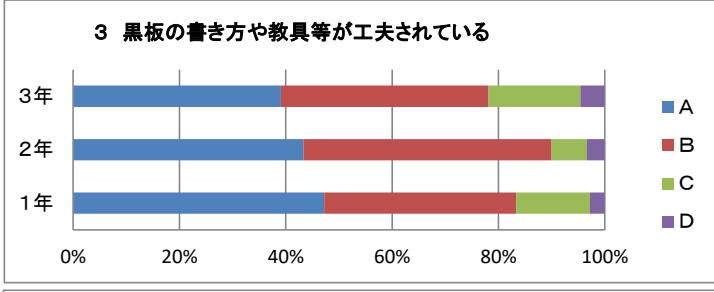
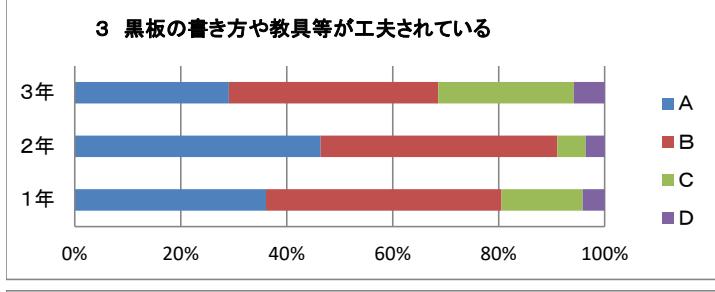
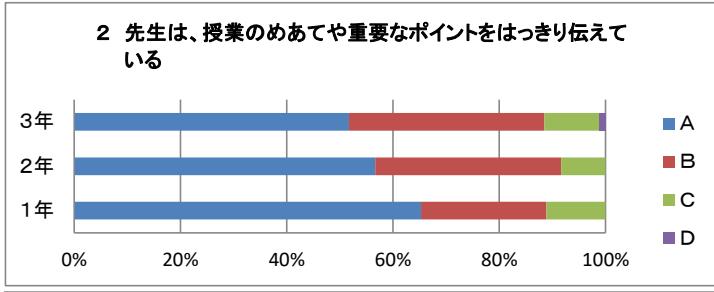
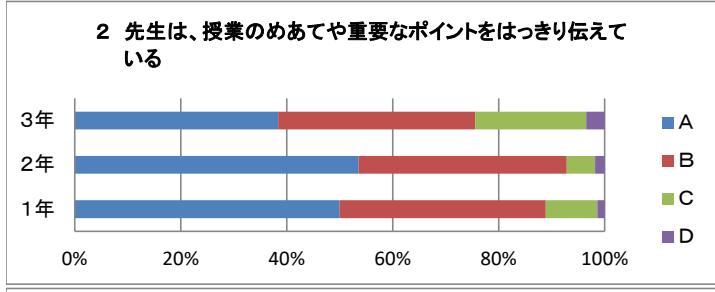
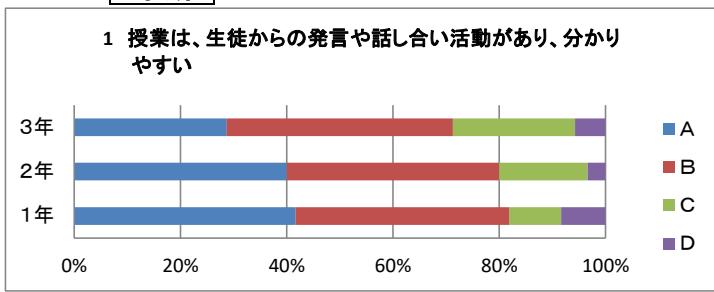
令和元年度 12月 授業評価アンケート(生徒) 集計結果【技術】

A:強くそう思う B:大体そう思う C:あまりそう思わない D:全くそう思わない

1学期



2学期



【分析】

1学期と比較し、若干ではあるが肯定的評価が増えたが、教科の特性上話し合い活動に時間をかけることができない。教材教具に工夫がない点の割合が高いが、あえて自ら工夫する試行錯誤の過程を重視している。話し合い活動を取り入れ効率的に技能習得が得られるように授業改善を行っていく。

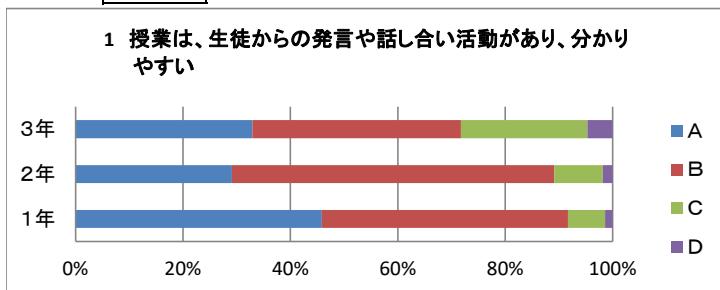
【課題】

- [1年]技能習得に向けての話し合い活動を取りいれる時間を確保する。
- [2年]電気領域に入る所以、知識理解と技能の連携が重要になる。学びあい活動を取り入れることを課題とする。
- [3年]授業時数が少ない中レポート作成にむけ、より効率的な時間の活用を進める。

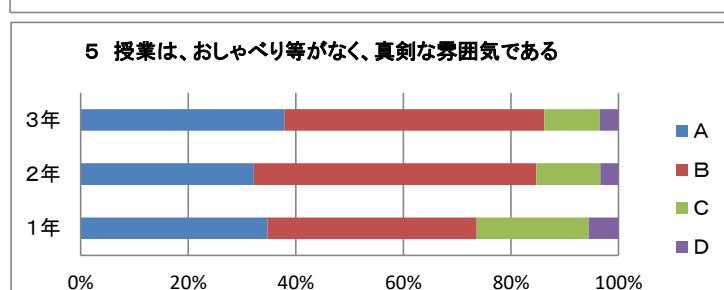
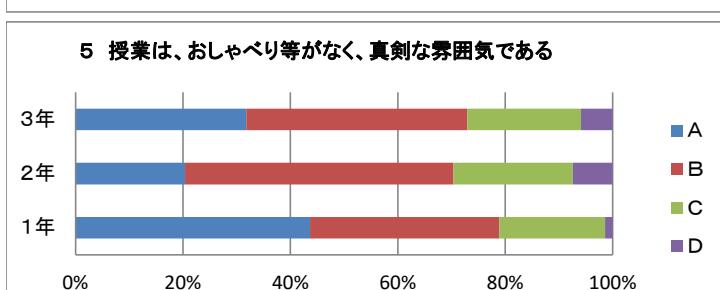
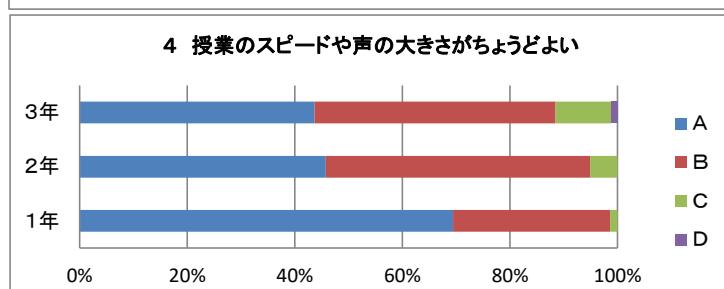
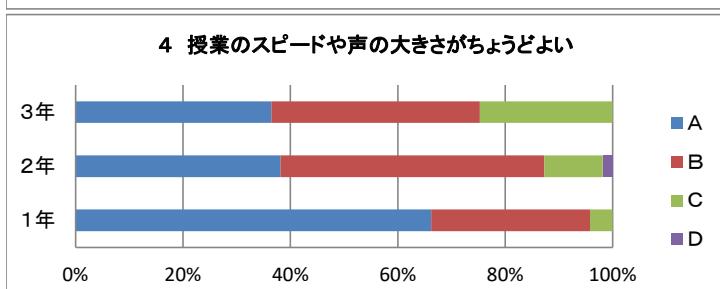
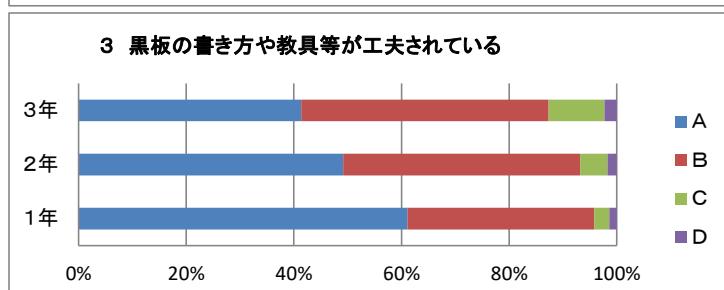
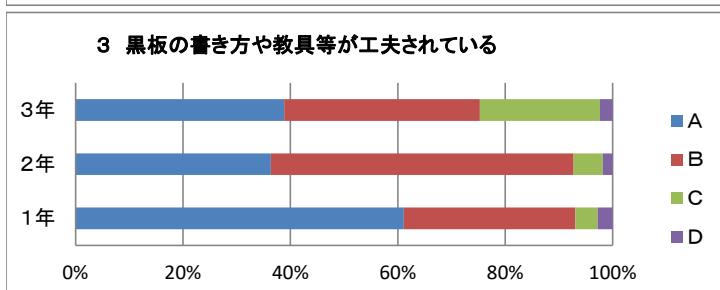
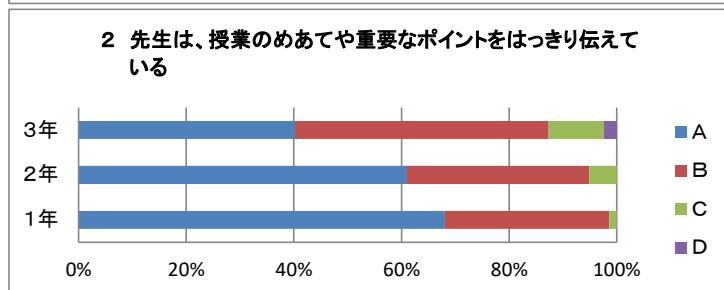
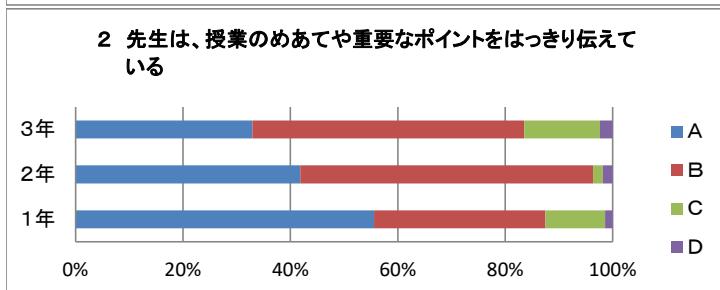
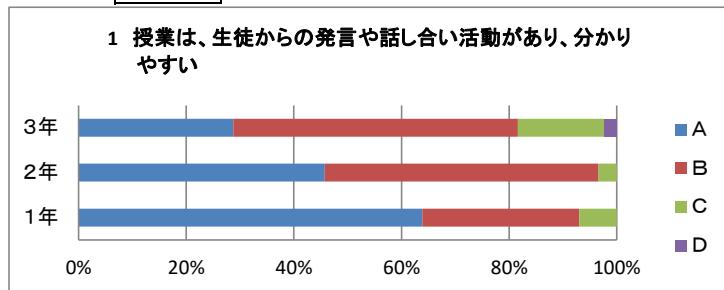
令和元年度 12月 授業評価アンケート(生徒) 集計結果【家庭】

A:強くそう思う B:大体そう思う C:あまりそう思わない D:全くそう思わない

1学期



2学期



【分析】

一学期と比較して、肯定的な意見が増加した。二学期前半までは実習の授業が多かったが、後半から座学の授業になったことが要因と考えられる。今後も、授業の改善に努めたい。

【課題】

[1年]「5」の結果から、授業の規律面を正す必要性が考えられる。生徒からの発言の際は、生徒を決めて発言させ、おしゃべりにつながらないように気をつけたい。

[2年]「4」の結果から、授業のスピードが早くならないように、また後方まで声が届くように説明できるよう改善していきたい。

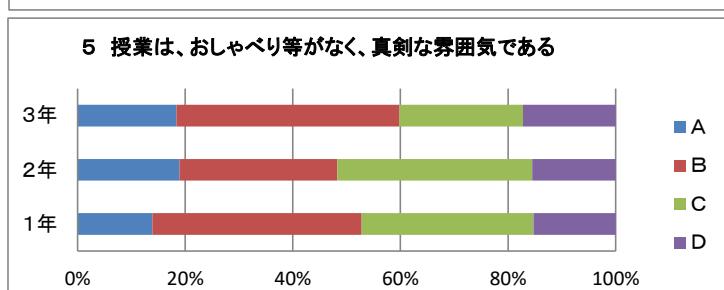
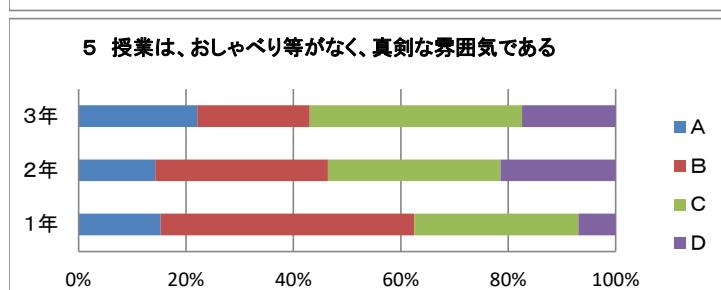
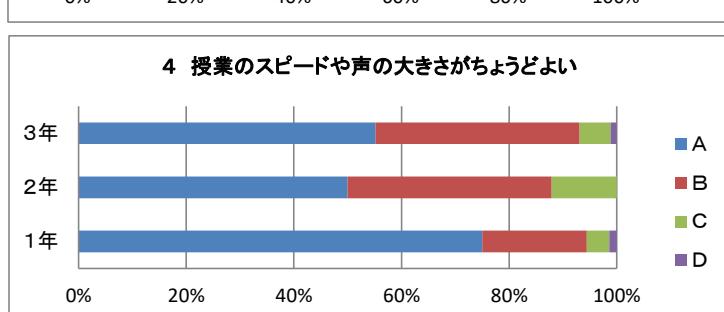
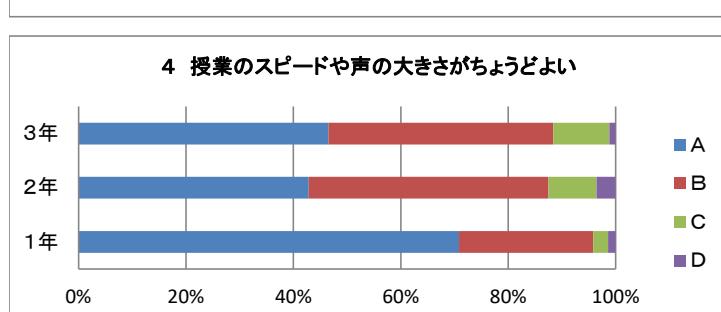
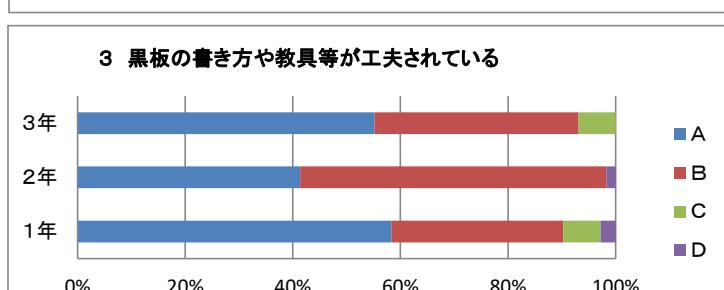
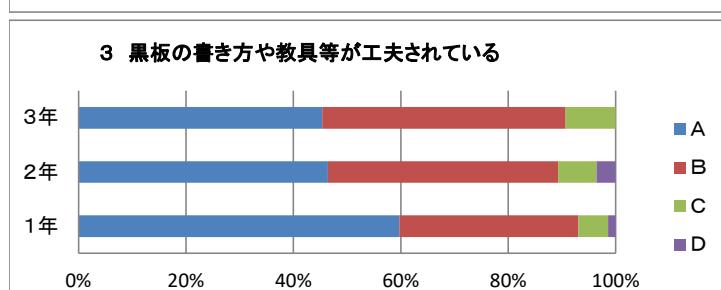
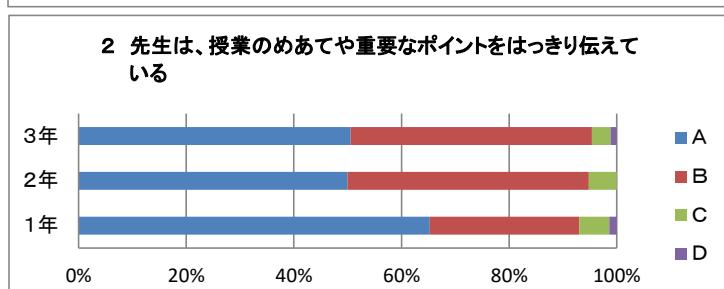
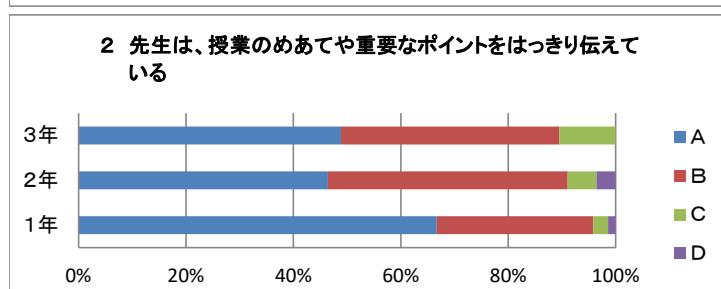
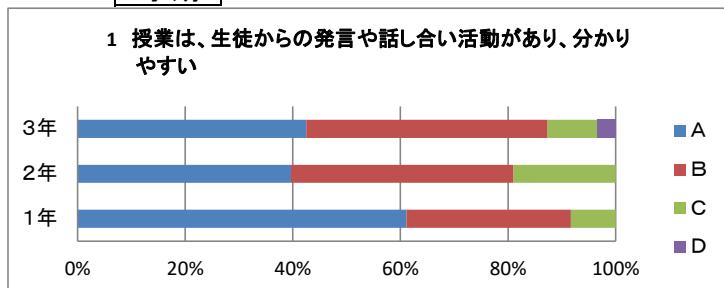
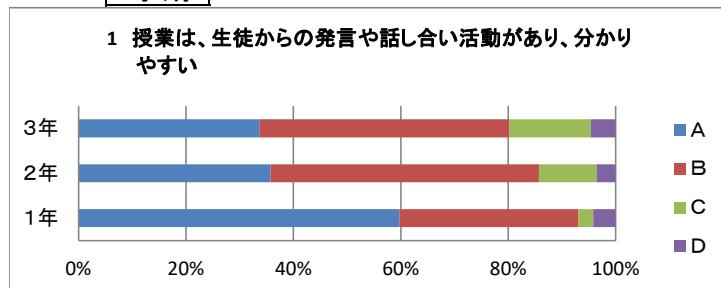
[3年]「1」の項目は、授業数が少ないので難しい点はあるが、発言や話し合いなどの活動を授業の中に取り入れられるようにしていきたい。

令和元年度 12月 授業評価アンケート(生徒) 集計結果【美術】

A:強くそう思う B:大体そう思う C:あまりそう思わない D:全くそう思わない

1学期

2学期



【分析】

概ねの項目において、1学期の結果と比較し、肯定的な意見の回答の比率が高くなっています。しかし、項目[3]については2・3年において、1学期と比較し、Aと回答した生徒が減っています。

また、項目「5」については、1学期と同様に、半数に近い生徒が、C・Dと回答している。

【課題】

質問項目「5」から読み取れる通り、授業内の規律や私語の面について課題がある。1学期から引き続き、授業の形式や、説明の方法や話し方を工夫することで、授業の雰囲気を改善していく必要がある。

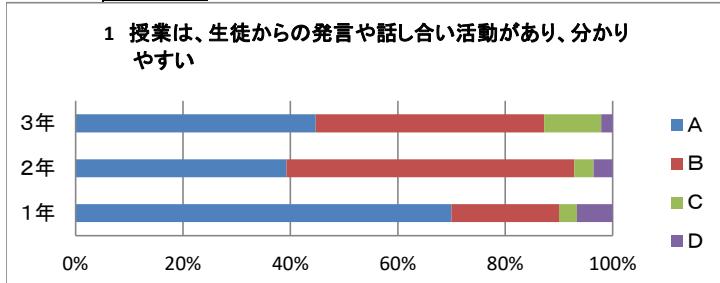
教具については、生徒の実態に合ったものを準備しているが、黒板の字については、より見やすく書く必要があると考える。急いで書くと字が崩れてしまうことが課題であるため、重要事項については、掲示物を準備して、貼ることで視覚的な学習効果を高めたい。

項目「5」については、発言や話し合いの場面と、個人で集中して取り組む場面の切り替えが適切に行われていないことが課題である。

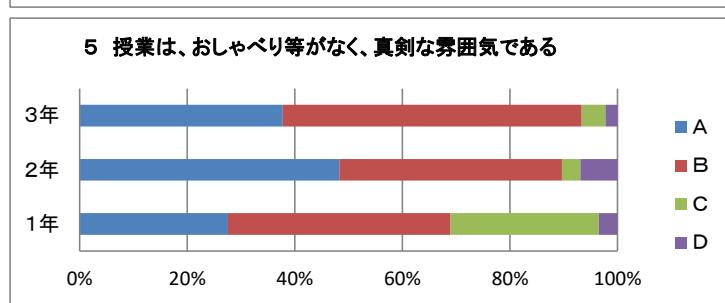
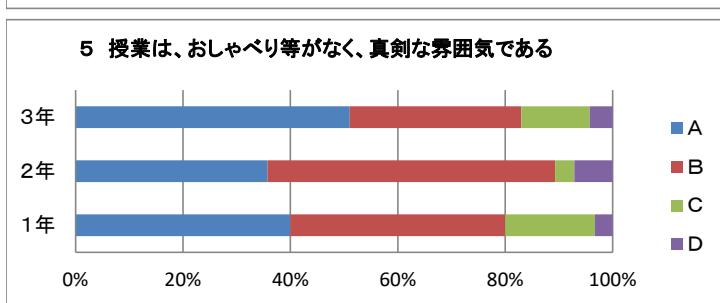
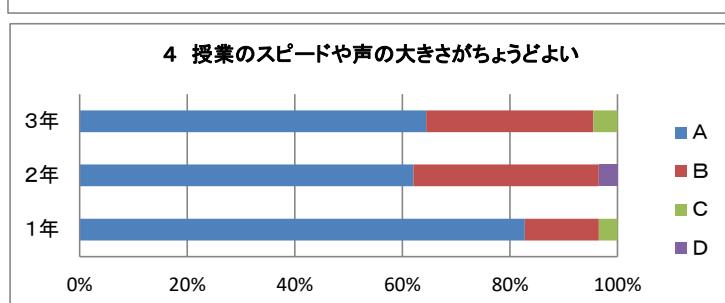
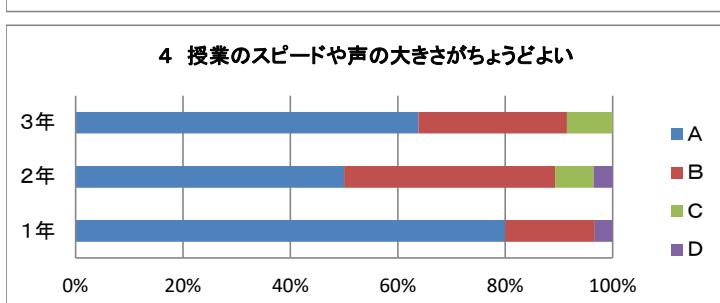
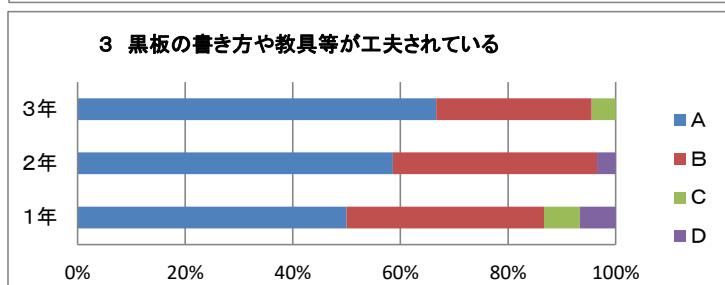
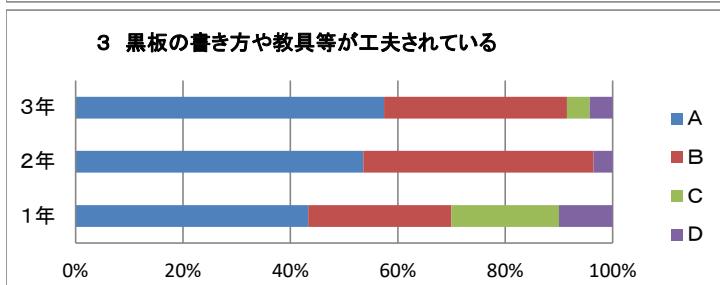
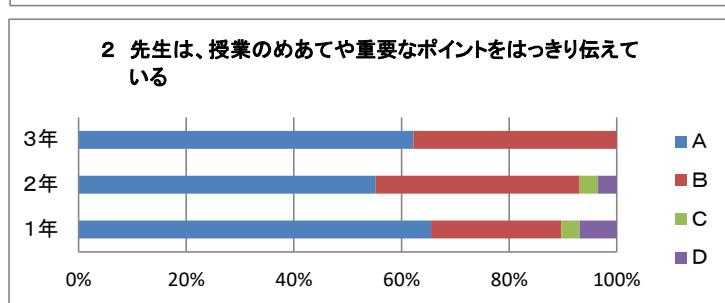
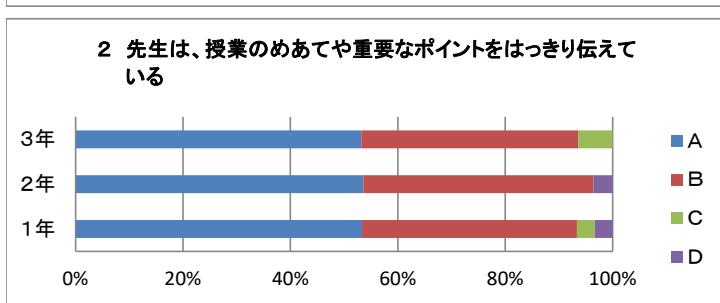
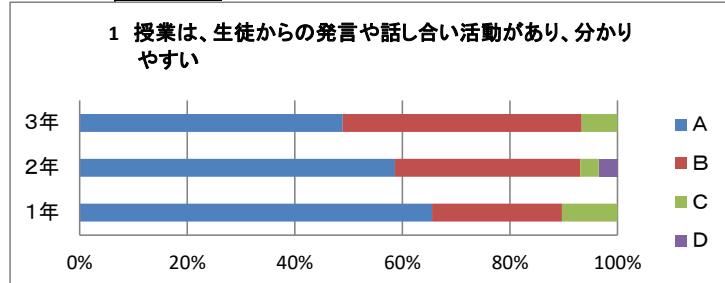
令和元年度 12月 授業評価アンケート(生徒) 集計結果【保育男子】

A:強くそう思う B:大体そう思う C:あまりそう思わない D:全くそう思わない

1学期



2学期



【分析】

全体的にAB評価が多かった。2では、90%以上がAB評価であり、授業のねらい、ポイントを意識して授業に参加できていることがわかる。しかし学期を比較すると、1・2年でCD評価が増えている。2学期の種目は、ダンスや球技であり、ポイントを十分に伝えきれていないことが考えられる。CD評価に着目すると、5が課題である。事故・怪我につながる危険性が高まるため、改善すべきである。

【課題】

「5」について、さらにメリハリのある授業展開を意識していく。真剣な雰囲気ができていない場合には、事故怪我につながることをより意識し、指導するように心がける。安全管理とともに、安全指導を徹底していく。

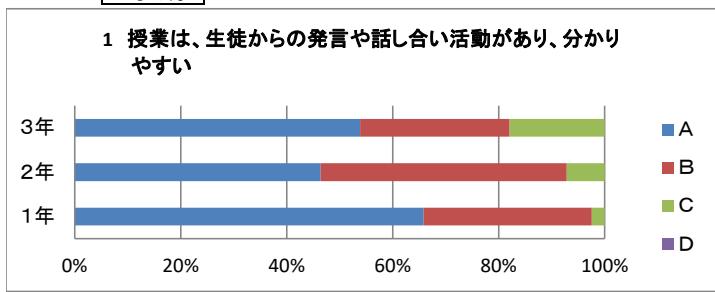
「3」については、教具として、提示カードや壁掲示等を効果的に使用する。また、タブレットを学習場面に有効に活用できるように、操作方法などを学ぶ。保健では、板書時間を削減し、生徒との対話、話し合い活動、実験などを重視するため、引き続き、パワーポイントで教材を作成する。

「2」については、各種目について、さらに学習カードを工夫し、ポイントを整理するためのカードや、技術的なポイントをチェックするためのカードなど、目的に応じて学習カードを使用したい。

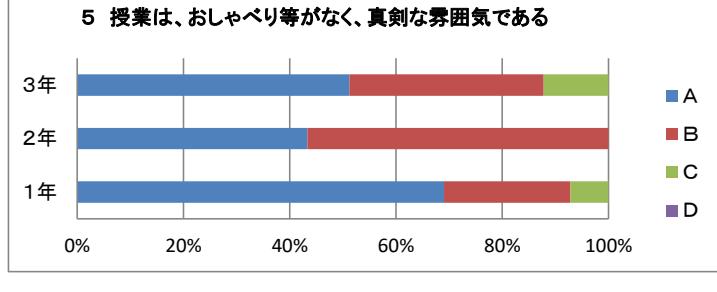
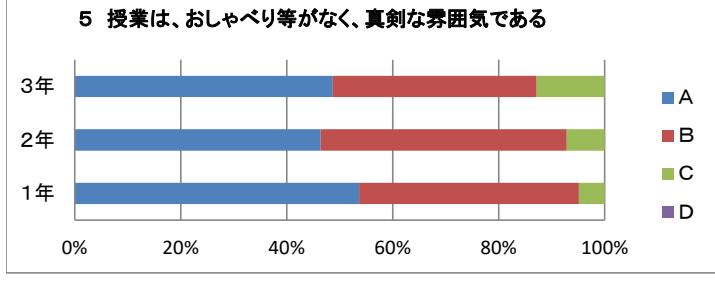
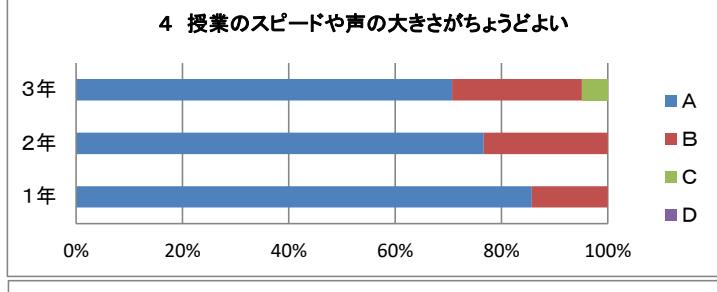
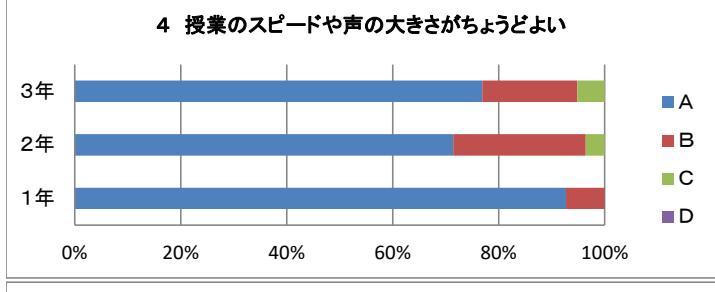
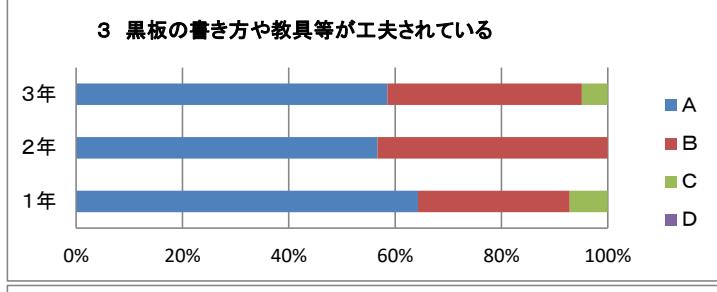
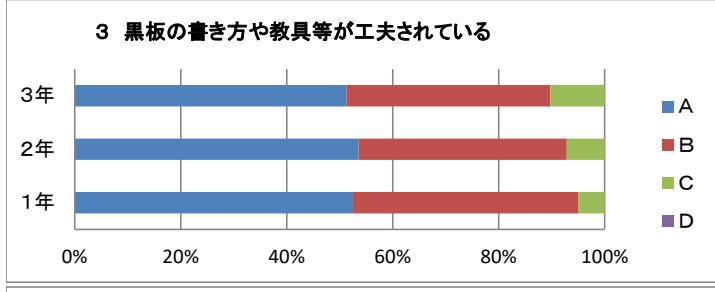
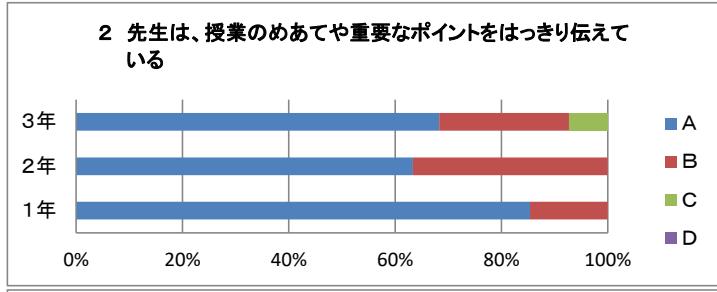
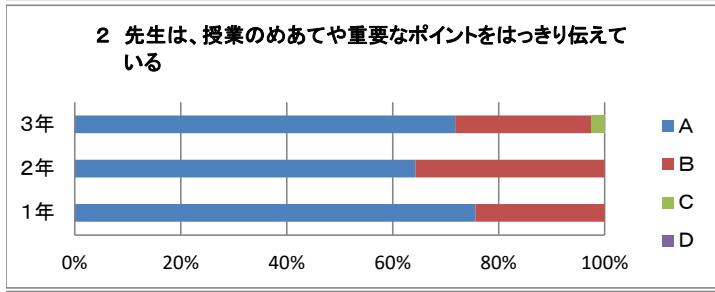
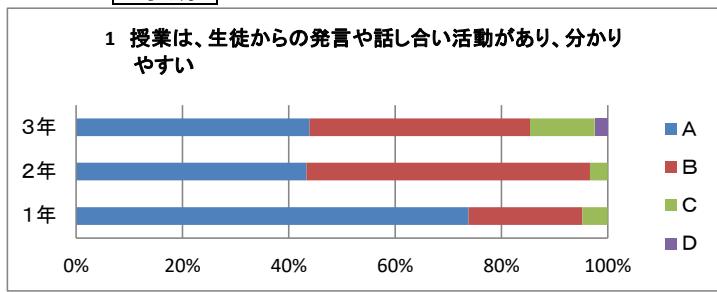
令和元年度 12月 授業評価アンケート(生徒) 集計結果【保育女子】

A:強くそう思う B:大体そう思う C:あまりそう思わない D:全くそう思わない

1学期



2学期



【分析】

1学期に比べ、項目3・4・5のA・Bの評価が増えている。学年ごとで見ると差はあるが、特に1年の項目2、3においては、学習カードやDVDなどを使用し、視覚的に学習を深める方法を取り入れたことが結果として表れていると感じる。一方で、3年の項目1について、D評価がついている。生徒間の教え合いや話し合い活動を課題に、今後の授業に生かしていきたい。

【課題】

[1年]1学期よりも全体的にA・B評価が上がったが、項目4より授業の進行スピードが速いという結果があるため、生徒の取り組み状況を確認しながら、生徒との対話を取り入れていくことが課題である。

[2年]1学期の評価と比べ、項目3・4・5において、C評価がなくなり、A・B評価が増えた。しかし、全体的にA評価の数値は変化がないため、特に項目1について、生徒同士の教え合い活動を通して、より内容を深める学習につなげられるよう、話し合い活動を多く取り入れていく。

[3年]項目1について、D評価がついている。体育分野ではグループ練習、保健分野では話し合い活動や発表など、学習内容に合う指導方法を考え、授業をより深められるように教材研究に励んでいく。